

実践事例：チームティーチング（ＴＴ）を取り入れた授業

1 主題名 友達への注意＜２－（３）信頼友情＞

2 資料名 「大きな絵はがき」（東京書籍４年生用副読本）

3 ねらい 友達と互いに信頼し合い、互いのことを考えて行動することで、友情を深めていこうとする心情を育てる。

4 ねらいとする価値

真の友情を育むためには、注意や忠告をし合えるほどの信頼関係がなければならない。互いの信頼感をもとに、相手のために思って注意や忠告をし合い、それを素直に聞き合える関係をつくることが求められる。

5 展開の概要

学習活動の流れと主な発問など
<p>1 友達がいてよかったと思うときについて発表する。</p> <p>○友達がいてよかったと思うのはどのようなときですか。</p>
<p>2 資料「大きな絵はがき」を読んで話し合う。</p> <p>○仲よしの正子からのはがきを読んで、広子はどんな気持ちになっただろう。</p> <p>○母と兄の考えを聞き、広子はどんなことを考えただろう。</p> <p>◎返事を書き始めた広子は、どんな気持ちだろう。</p>
<p>3 自分の生活を振り返って考える。</p> <p>○あなたは、これまでに、友達に注意したことがありますか。それは、どんな気持ちからですか。</p>
<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>・相手のことを思って課題を指摘することで、互いの信頼が増していくことを語る。</p>

留意点

◇定形外郵便についての補足説明

定形外郵便について、知識のない児童もいるので、大きな絵はがきの実物を見せて説明する。切手の金額についても教え、料金不足の意味がよく分かるようにする。

◇ＴＴによる授業

T1とT2の役割分担は、事前に綿密に打ち合わせを行う。また、それぞれの役割を学習指導案に明記することで、その効果を高めるようにする。

6 指導の実際

（１）本実践におけるＴＴの取り入れ方

本実践では、T1が、「友達なら教えてあげたほうがいい」という兄の立場に立ち、T2が「お礼だけ言っておいたほうがいい」という母の立場に立つという役割分担を行った。それに基づいて資料提示、発問、板書を、以下のように、分担したり、協力したりして授業を行った。

資料提示

兄の部分と母の部分はT1とT2で役割分担をして読む。また、郵便配達の人や正子の台詞も分担して読み、臨場感が出るようにする。

発問

発問時に兄の言葉と母の言葉をT1とT2で分担し、考え方の違いを理解できるようにする。互いに自分を支持するように呼びかける。

板書

主人公の揺れる気持ちを表すために、二つの吹き出しを作る。兄の意見に近いものはT1が板書し、母の意見に近いものはT2が板書する。

TTの授業の打ち合わせでは、ねらいに迫るために互いのアイディアを出し合い、役割分担のみならず、発問や板書についても話し合いを重ねた。また、授業後は、児童の評価とともに、授業の評価も行った。これらのことから、授業者が相互に指導方法などを学び合い、授業力のさらなる向上を図ることにつながった。

(2) 授業後の児童の感想より

お兄さんとお母さんの意見をそれぞれの先生が話してくれたので、とても分かりやすかったし、おもしろかったです。わたしも、友達がもし間違っていたら、広子のように、その子のことを思ってアドバイスしてあげたいと思います。本当の友達なら、おこらないで、きっと分かってくれると思います。



<参考>ゲスト・ティーチャーになりうる人材と授業実践例

	教職員	保護者・卒業生	地域の方々	専門家など
人材	校長 副校長 教頭 専科教員 養護教諭 事務主事 用務主事 栄養士講師 A L T 各種指導員など	保護者 卒業生 同窓会長など	町会長 育成委員会委員 民生委員 図書館職員 官公署職員 交通機関職員 保育園・幼稚園教職員 学校評議員	専門知識や技能・特技などをもち、授業のねらいに適した方
授業実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・「校章」に込められた願いについて校長先生に解説してもらう。(愛校心) ・食育授業の終末に、栄養士の先生に話してもらう。(節度ある生活態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終末に、保護者を書いていただいた手紙を児童が読む。(家庭愛) ・活躍する卒業生に、努力の大切さについてビデオ・メッセージをお願いし、終末に流す。(勤勉努力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員の方に、図書館の使い方に関する現状とマナーについて話していただく。(公德心) ・町会長さんには、昔の学区域の様子を授業の終末に話していただく。(郷土愛) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入や終末で和楽器の生演奏を聴く。(愛国心) ・地域の町工場が製作した部品などを、紹介していただく。(創意工夫)